

耳鼻いんこう科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域、すなわち耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・頭頸部、気管（支）、食道およびそれらの中枢神経領域に関する問題について、社会のニーズに対応し、医の倫理に基づき診療を適切に実施し、境界領域の疾患の処置を正確に行う基本的な能力を養う。

II 行動目標 (SBOs)

1. 一般教育目標

必要な症候学の知識に精通し、適切な問診がとれる能力を有すると共に、患者心理を理解して問診する態度を身につける。外来で行いうる検査方法や検査機器を理解し、必要にして十分な検査を行いうる能力を持つ。問診、症状、所見による診断ならびに鑑別診断を行う能力、及び他の医療従事者と協力して問題を解決する能力を養う（リハビリテーション）。救急疾患、外来診療に伴う偶発症に対する診断処理能力を身につける。

A) 外来の受け入れ、文章の作成など

疾患の程度・内容から外来診療、入院診療および手術の適応を定められる。

外来診療器機の取り扱いに精通する。

外来における院内感染の重要性を理解し、その対策ができる。

紹介医に対する返答ができる。

B) 問診

鑑別に要する検査法の体系化ができる。

C) 診断ならびに検査

検査を指示し、自ら実施し、所見を所定評価することができる。

D) 鑑別診断 次の各症候に対し、適切な鑑別診断ができる。

耳：耳痛、耳漏、難聴、耳鳴り、耳閉感、めまい、眼振、脳神経障害、頭痛

鼻・副鼻腔：鼻閉、鼻漏、くしゃみ、鼻出血、頬部主張、複視、眼球突出

口腔：構音障害、言語障害

咽頭：咽頭痛、嚥下痛、嚥下障害、いびき

喉頭：音声障害、異常感覚

気管食道：咳、呼吸障害

頭頸部：頸部腫脹、頸部腫瘤

E) 治療

次の各疾患の適切な治療方針を立て、外来で可能な治療を行う。

① 耳の疾患

- ・外耳疾患：外耳炎、外耳道湿疹、真菌症、軟骨膜炎、異物、耳垢塞栓
- ・中耳疾患：耳管狭窄症、急性中耳炎、慢出性中耳炎、慢性化膿性中耳炎、真珠腫性中耳炎
- ・内耳疾患：老人性難聴、メニエール病、前庭神経炎、突発性難聴、良性発作性頭位めまい
- ・奇形：耳瘻孔
- ・顔面神経：ベル麻痺、ハント症候群

- ② 鼻の疾患
 - ・発育異常：鼻中隔彎曲症
 - ・顔面外傷：鼻骨骨折、顔面多発骨折、ふきぬけ骨折
 - ・鼻、副鼻腔疾患：歯性上顎洞炎、急性・慢性副鼻腔炎、乾酪性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、上顎嚢胞
 - ・上顎癌
 - ・鼻出血
- ③ 口腔
 - ・耳下線炎、唾石症
- ④ 咽頭・扁桃疾患
 - ・急性扁桃炎、習慣性扁桃炎、扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍、アデノイド増殖症
 - ・上咽頭癌、下咽頭癌
- ⑤ 喉頭の疾患
 - ・喉頭疾患：喉頭白斑症、声帯ポリープ、ポリープ様声帯、声帯結節、喉頭外蓋炎
 - ・神経障害：反回神経麻痺、喉頭異常感症
 - ・腫瘍：喉頭癌
- ⑥ 気管・気管支・食道の疾患：食道異物
- ⑦ 頭頸部の疾患：甲状腺疾患 頸部リンパ節移転 先天性嚢胞・瘻孔頸部リンパ節炎

F) リハビリテーション

下記の項目について医療としての方針を決定し、適切な助言ができる言語治療、めまい、耳鳴り、奇形に対する助言、発声訓練、補聴器装用訓練

G) 救急・偶発症

外来で可能な救急処置ができ、診療に伴う偶発症に対処できる
異物、ショック、気道出血、めまい、意識障害

2. 検査

耳鼻咽喉科領域の専門的検査の適応に従い、それを実施できる。

A) 耳に関するもの

耳鏡検査、顕微鏡下検査、ファイバースコープ、聴覚検査、純音聴力検査（気導、骨導、マスキング）ティンパノメトリー、アブミ骨筋反射検査、平衡機能検査

B) 鼻の領域

鼻アレルギー検査、ファイバースコープ

C) 口腔の領域

電気味覚検査

D) 咽頭の領域

扁桃病巣感染症の検査

E) 喉頭・気管・食道の領域

ファイバースコープ、間節喉頭鏡検査

F) 耳鼻咽喉科領域の画像検査の読影

CT、MRI、鼻・耳単純写真

Ⅲ 方略 (LS)

1. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
2. 指導医・上級医のもとで、外来新患患者の診察、検査指示を行う。
3. 指導医・上級医とともに手術・検査に参加する。
4. カンファレンスに参加し、積極的に討議する。

Ⅳ 経験すべき疾患

1. 内耳性めまい
2. 喉頭癌
3. 副鼻腔炎

Ⅴ 評価(EV)

1. EPOC による評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。(めまい)